

令和6年3月12日

保護者 様

千葉大学教育学部附属特別支援学校
校 長 辻 耕 治

令和5年度学校評価アンケートの結果について

ご多忙にもかかわらず、令和5年度学校評価アンケートへのご協力ありがとうございました。学校評価の概要についてお知らせするとともに、ホームページに公表いたします。

令和5年度の評価について、保護者からの回収率は90パーセントとなり前年から大幅に上がりました。全28項目での肯定的評価は増加1項目、同数4項目となり全体的を通して微減傾向でした。職員の回収率は100パーセントで、肯定的評価が全32項目中30項目で前年比を上回りました。うち100パーセントの肯定的評価が12項目に増加しており、総合的に評価が上がっている傾向にあります。

※1 (1=そう思う) (2=まあまあそう思う) の合計数値を肯定的評価として、自己評価をしています。

※2 前年と比較した増減を保護者・職員それぞれに集計した結果として表記しました。特に100%と前年比で増減があった項目を抽出して記載しました。

I 情報発信・連携について（共通）

【保護者】 5項目中3項目で前年比微減となりました。番号5については、新型コロナウイルス感染症が5類に引き下げとなったことを受け、盛んに交流及び共同学習が再開されることを期待していた反面、十分な活動につながらなかったことが原因と考えられます。交流校との連携・連絡を図り、交流及び共同学習が進められるようにしていきます。

【職 員】 5項目全てが前年比増（番号4は100パーセント）でした。コロナ後の活動再開や新規の活動などが行えたことが理由と考えられます。引き続き保護者のニーズを丁寧に聞き取りながら学習計画に反映していけるようにします。

II 環境・安全について（共通）

【保護者】 5項目中1項目で前年比微増、4項目で前年比減となりました。番号8は番号12での行事における掲示などの評価に一部関連するものと考えます。自由記述では校内の雰囲気明るくてよいという意見がありました。

【職 員】 5項目中全てで前年比大幅増（番号8・9が100パーセント）でした。年間を通じて普段から防災・安全に関する点検や訓練を実施しており、職員の意識の高さが反映されました。今後も校内美化を含めて安全の意識を徹底します。

児童生徒の安全・安心な学習環境をつくるために、職員がさまざまな場面で校内整備や環境づくりに取り組んでいることが反映されています。

III 年間計画・行事について（共通）

【保護者】 4項目全てが前年比減となりました。番号12について、令和5年度の「ふよう祭」は天候の影響を受け準備段階から雨天版（屋内開催）での実施となりました。例年と勝手が変わり混雑感や販売場所への動線など、反省すべき点があったことによりポイントに大きく影響したと考えます。また、年間計画で学部行事等の時期変更があったため、体調管理等で心配とを感じる意見もありました。行事等については適宜反省を行い、改善策の検討をしております。

【職 員】 3項目で前年比増（番号13・14で100パーセント）でした。番号12について、保護者のポイント減に反して職員は全回答中で最もポイントがアップした項目となりました。アフターコロナや全天候を踏まえた持続可能な学校行事という観点で繰り返し検討を重ねてきた結果として実現につながったことが反映されたものです。反省や今後の課題を検討して更に魅力ある学校行事の実現を目指して参ります。

Ⅳ 教育活動について（共通）

【保護者】 8項目中1項目で微増、6項目で微減となりました。自由記述では、職員方への感謝、子どもたちが楽しそうに活動していることその他、個々に合わせた指導等／食育／進路研修会への要望など多くの意見をいただきました。番号22については、前年度と同数ですが全項目で最もポイントが低いものでした。各学部が課題としていることでもあります。高等部は令和5年度から年次進行で一人1台パソコンを個人で購入して授業に活用しています。中学部では令和6年度の研究テーマにICTの活用を設定していく予定でおります。

【職員】 7項目で前年比増（番号15・17・21で100パーセント）、1項目は同数でした。アフターコロナで制限がなくなり、さまざまな教育活動を再開したり、挑戦したりすることができるようになったことが反映されています。これまでの取り組みを継続し、家庭との連携のもとに個別の教育支援計画をつくり、教科等を合わせた指導を中心にきめ細やかな進路指導、地域との結びつきを大切にした取り組みを充実させていきます。

Ⅴ 職員について（共通）

【保護者】 3項目中2項目で前年比微減となりました。自由記述からは職員の多忙からくる体調を気遣う意見、人手不足を指摘する意見がありました。「働き方改革」がすすめられている現在、業務の効率化や業務改善は避けられない状況にあります。

【職員】 3項目全てが2年連続で前年比増（番号23・24は100パーセント）でした。自由記述からは子どもの呼称（呼び方）や挨拶の向上について意見が出ました。これまでよりも高い意識で取り組めるよう学校全体で検討を行います。

Ⅵ 児童・生徒について（共通）

【保護者】 3項目全てで前年比減となりました。番号27・28についてはどちらも前年比から9ポイントの減となりました。子どもたちの「やりたい」を柔軟に受け止め活動につなげていけるよう、また日常生活の指導において家庭と連携をとっていけるよう保護者との協力体制をより深めていくことが大切だと認識しています。

【職員】 3項目全てで前年比増（番号26・27は100パーセント）でした。番号28については、キャリア発達の視点をもって学校全体で共通意識がもてるよう進路指導担当や校内委員会（キャリア教育検討委員会や進路・移行支援委員会）でも検討を行います。

Ⅶ 附属の役割（職員のみ）

【職員】 4項目全てで大幅に前年比増でした。アフターコロナで人数制限なしで計画した公開研究会の実施や各種研修会の開催ができたこと、教育学部や附属校園との連携や交流も再開し活発な活動ができたことが反映されました。番号32について、教育実習生の受入れが増加しており職員への負担が増しているという意見があります。受け入れ可能な人数や日程調整等が適正となり、実習生にとって充実した教育実習となるよう大学側と調整していくことが重要であると認識しています。

今回のアンケートでは、本校に対する様々な思い、ご意見、ご要望など多数いただきました。学校として真摯に受け止め、今後も保護者の皆様のご協力をいただきながら、子どもたちのためによりよい教育実践を行って参ります。

令和５年度 学校評価アンケートのまとめ

- (１) 対象者：保護者（回収率90.0％） 教職員（100％）
 (２) アンケート項目：保護者２８項目 教職員３２項目 ※１から２８項目までは共通
 以下、質問項目及び結果を示す。

【評価基準】 １＝そう思う ２＝まあまあそう思う …… 肯定的評価
 ３＝あまりそう思わない ４＝そう思わない …… 否定的評価
 ※数値の単位：％ 無回答は人
 （無回答を除外した数を母数として算出）

I 情報発信・連携

番号	評価項目	回答者	1	2	3	4	無回答	R5	R4
								肯定的評価	肯定的評価
1	保護者に、学校目標や学校運営の重点目標をわかりやすく伝えている。	保護者	66%	30%	0%	4%		96%	96%
		職員	61%	37%	3%	0%		97%	89%
2	保護者に、各種たよりや連絡帳等で、必要な情報や子どもの様子をわかりやすく伝えている。	保護者	74%	23%	0%	4%		96%	100%
		職員	68%	29%	3%	0%		97%	92%
3	ホームページや学校公開（土曜スクール、学校見学会、オープンスクール）、公開研究会等で学校のことを外部に発信している。	保護者	62%	30%	4%	4%		92%	96%
		職員	55%	45%	0%	0%		97%	86%
4	担任や学校は、保護者の声に耳を傾けて、連携を取りながら、教育活動や学校運営を行っている。	保護者	77%	19%	0%	4%		96%	96%
		職員	26%	53%	21%	0%		100%	92%
5	学校は、大学、附属学校園との連携、交流及び共同学習を進めながら学校運営を行っている。	保護者	53%	34%	11%	2%		87%	96%
		職員	13%	71%	11%	5%		79%	78%

II 環境・安全

番号	評価項目	回答者	1	2	3	4	無回答	R5	R4
								肯定的評価	肯定的評価
6	学校内は、美化・整理整頓が行き届き、清潔感がある。	保護者	57%	34%	6%	4%		91%	90%
		職員	13%	71%	11%	5%		84%	78%
7	子どもが安心して学べるよう、安全な校内環境になっている。	保護者	70%	26%	0%	4%		96%	100%
		職員	32%	55%	11%	3%		87%	75%
8	校内に掲示されているお子さんの作品や活動の様子は、分かりやすいものになっている。	保護者	79%	15%	2%	4%		94%	100%
		職員	53%	47%	0%	0%		100%	89%
9	お子さんの様子の変化に目を配り、病気やけがの際の対応は適切だと思いますか。	保護者	75%	21%	0%	4%		96%	100%
		職員	55%	45%	0%	0%		100%	94%
10	学校は、地震災害への対応や、事故を防ぐための対応など、安全管理や危機管理に努めている。	保護者	68%	26%	2%	4%		94%	98%
		職員	50%	45%	3%	3%		95%	83%

Ⅲ 年間計画・行事

番号	評価項目	回答者	1	2	3	4	無回答	R5	R4
								肯定的評価	肯定的評価
11	年間の計画は教職員、子ども、家庭にとって無理のない、適切なものになっている。	保護者	62%	26%	8%	4%		89%	96%
		職員	16%	47%	32%	5%		63%	64%
12	魅力のある学校行事（運動会やふよう祭など）が実現されている。	保護者	72%	17%	8%	4%		89%	98%
		職員	45%	50%	5%	0%		95%	83%
13	入学式・卒業式など儀式行事は、趣旨に合った適切なものとなっている。	保護者	77%	17%	2%	4%		94%	100%
		職員	53%	47%	0%	0%		100%	94%
14	各学部の行事は、子どもたちの発達段階に応じた適切なものとなっている。	保護者	75%	19%	4%	2%		94%	98%
		職員	45%	55%	0%	0%		100%	89%

Ⅳ 教育活動

番号	評価項目	回答者	1	2	3	4	無回答	R5	R4
								肯定的評価	肯定的評価
15	教育活動は、子どもたちが自分から目当てと見通しをもって意欲的に取り組める内容となっている。	保護者	74%	17%	6%	4%		91%	96%
		職員	42%	58%	0%	0%		100%	94%
16	各学部の教育活動は、卒業後、自立し、働く活動を中心とした社会生活につながるような内容となっている。	保護者	60%	30%	6%	4%		91%	92%
		職員	34%	61%	5%	0%		95%	94%
17	教育課程の中心となっている、遊び、日常生活の指導、生活単元学習や作業学習は、児童生徒の成長に十分効果を発揮している。	保護者	66%	25%	6%	4%		91%	96%
		職員	50%	50%	0%	0%		100%	94%
18	進路に関する情報の提供や研修会は十分に行われている。	保護者	58%	28%	11%	2%		87%	88%
		職員	37%	58%	5%	0%		95%	86%
19	遊び、生活単元学習、作業学習は、他の取り組み（例えば、自立活動や職業/家庭）と連携が図れている。	保護者	58%	32%	6%	4%		91%	92%
		職員	26%	63%	11%	0%		89%	86%
20	「社会に開かれた教育課程」のために地域資源の活用や地域貢献など地域との連携を進められている。	保護者	43%	40%	13%	4%		83%	79%
		職員	29%	61%	11%	0%		89%	78%
21	個別的教育計画（個別の指導計画、個別的教育支援計画、個別の移行支援計画）について保護者と十分話し合い、経過や結果について丁寧な説明をしている。	保護者	77%	19%	0%	4%		96%	100%
		職員	53%	47%	0%	0%		100%	89%
22	パソコンやタブレットなどのＩＣＴ機器を活用した取り組みは、有効に行われている。	保護者	40%	38%	19%	4%		77%	77%
		職員	29%	61%	11%	0%		89%	89%

V 職員

番号	評価項目	回答者	1	2	3	4	無回答	R5	R4
								肯定的評価	肯定的評価
23	教職員は、熱意と情熱をもって教育活動にあたっている。	保護者	85%	9%	2%	4%		94%	98%
		職員	61%	39%	0%	0%		100%	94%
24	教職員は、子どもの気持ちを受け止めてきめ細かく対応している。	保護者	83%	9%	2%	6%		92%	94%
		職員	55%	45%	0%	0%		100%	97%
25	教職員の言葉遣い・態度など、職業人としてのマナーは適切である。	保護者	77%	19%	0%	4%		96%	96%
		職員	37%	61%	3%	0%		97%	92%

VI 児童・生徒

番号	評価項目	回答者	1	2	3	4	無回答	R5	R4
								肯定的評価	肯定的評価
26	子どもは、「今日に満足し、明日を楽しみに待つ」学校生活を過ごせている。	保護者	77%	17%	0%	6%		94%	96%
		職員	55%	45%	0%	0%		100%	97%
27	子どもが、自分からやろうとすること（自分でやりたいと思うこと）が増えてきている。	保護者	70%	19%	2%	9%		89%	98%
		職員	55%	45%	0%	0%		100%	97%
28	子どもに、挨拶や着替え、社会のルール、働くことの意義など自立するために必要な力が身に付いてきている。	保護者	66%	23%	4%	8%		89%	98%
		職員	45%	50%	5%	0%		95%	89%

VII 附属の役割

番号	評価項目	回答者	1	2	3	4	無回答	R5	R4
								肯定的評価	肯定的評価
29	研究校として、実践的研究を行い、有用な取り組みを外部に発信している。	職員	42%	42%	16%	0%		84%	75%
30	県内や地域における特別支援教育の推進に努めている。	職員	34%	58%	8%	0%		92%	83%
31	大学や教育学部と連携が図られ、お互いに必要な関係となっている。	職員	29%	55%	13%	3%		84%	69%
32	教育実習生に必要なかつ適切な指導を行い、有為な教員養成を行っている。	職員	42%	47%	8%	3%		89%	75%

令和5年度 学校評価アンケートの結果

